慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ON時間OFF時間
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2019
Jtitle	新版 窮理図解 No.31 (2019. 10) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000031-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ホルヘ・アルマザンの日本都市・建築観察

三徳山三佛寺投入堂（鳥取県）

切り立った狭い山道を辿り、鎖を使って岩を登ると、やっとお堂にたどり着く。絶壁の窪みに位置したこの繊細で小さな投入堂は、岩棚に危なげに立てられた細い柱に支えられている。その風流なはかなさは、まるで三徳山（みとくさん）の登山を経験し、完璧に保存された美しさを愛でることの方が、お堂の物理的な存在よりも大切であることを教えてくれるようだ。

圓通寺（京都）

圓通寺の縁側に座ると、木々や葉の間から比叡山の借景を見ることができる。縦にまっすぐに伸びた濃い色の杉の木は、水平な庭木と交わり、寺の柱と見間違えそうだ。複数の要素（木、円柱、葉、庭木）の単純な配置により、内側にまたは外側へ向けて、あるいは水平または垂直に広がるようにみせ、庭園の豊かな空間を生み出している。

鴨川納涼床（京都）

鴨川の土手に建てられた一段高い桟敷は川床と呼ばれ、建築構造により形態と環境と行動の要素を一体化させる一例となっている。活気ある都市の景観をつくりながらも、川の涼しい風を利用することで心地よい自然の温度を提供している。レストランにもつながっているので、客は空や川の景色を楽しみながら食事や喫茶ができる。京都の夏に生き生きとした祭りの雰囲気をもたらしてくれる。

靖国通りの雑居ビル

多くの人は見苦しいものと見なしがちだが、この街の景観は、東京で最も象徴的な景色の一つである。東京のパンフレットには、東京タワーや東京スカイツリーが東京のシンボルとして紹介されることが多いが、外国のガイドブックや雑誌では、この長く伸びた靖国通りを東京の特徴として紹介している。通り沿いには、看板がひしめく細い建物が並び、リズミカルで独特の景観を見せてくれる。

東京23区のありふれた低層住宅街

世田谷区のとある道端で撮影されたものだが、東京23区内のほとんどの低層住宅街が同じような特性を持っているので、具体的な場所はここでは関係ない。大都市のど真ん中に、大人が付き添うことなく子どもたちが安全に歩けるような、村を彷彿とさせる閑静な住宅街が存在することは驚きである。道は狭く、土地は地味だが、住人たちは、敷地の端にミニ花壇を作って道を飾り、心地よい雰囲気をかもし出している。

雨降る東京

東京の大きな駅周辺の商店街を特徴づける看板や大画面の広告といった街並は、雨が降った後、特に印象的となる。雨が降ると、小雨でも多くの東京人は外出をひかえるため、道路は普段よりもすいている。人通りが少なくなれば、周囲の照明が地面に反射して、街の中に浮いているような感覚を楽しむのにもってこいの時間となる。

ゴールデン街またはその他の東京にある横丁

ゴールデン街は、おそらく世界で最も密集した飲み屋街だ。ほとんどの飲み屋は5〜6人の客しか入れないが、オーナーや客は、この狭さをメリットと考えている。このくつろげる空間では、さまざまなコミュニケーションや会話を始めやすく、カウンターの内側にはバーテンが1人いれば間に合う。地上げの慣行にもかかわらず、この地域は奇跡的にいまだに生き延びており、形式ばらない公共の場として観光客にはますます人気の場所となっている。

アメ横（東京上野）

高架橋や高い建物は、線路の両側を隔ててしまうので、人が近寄りがたい。しかし、上野のアメ横は、障壁を作るどころかむしろその逆になっている。高架下の空間をうまく利用することに成功した小さな店舗が密集し、活気ある商業活動を行っている。

（ゴールデン街とアメ横の写真は研究室の学生、その他はホルヘ・アルマザンが撮影）